

ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

目標

- ・デジタル技術を活用した付加価値の高い商品開発やビジネスモデル変革を目指すこれからの地域産業界を担う人材の育成。
- ・予測困難な社会の変化にも主体的に対応できる資質・能力を有する人材の育成。
- ・地元企業のもつ技術力や存在意義などの魅力に触れ、自らもそうした企業で持続可能な地域や社会の実現に貢献しようとする態度の育成。

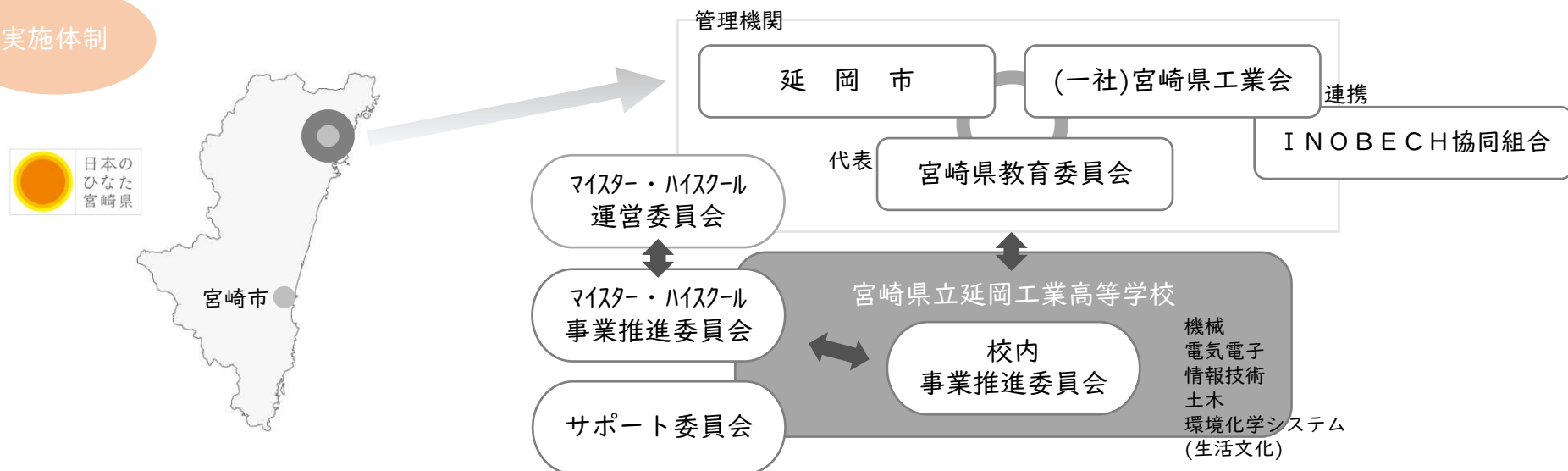
概要

高校段階での人材育成として、「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発（機械科）からスタート。地域産業界等のニーズを踏まえながら他学科へ展開。長期的な人材育成の視点に立ち、高校内でエンLab（エンラボ）を新たに設置し、延岡市民のものづくりの拠点を目指す。

事業計画

1年目	2年目	3年目	4年目以降
※「ICTを活用したものづくり」に力点を置いたカリキュラム開発 機械科実習の充実	機械科実習の更なる充実	機械科実習新カリキュラム	
ニーズ調査	機械科以外の取組や大学等との連携の在り方などの検討	（具体的な取組）	
エンLab環境整備	エンLab環境整備・試験運用	エンLab環境整備・本格運用	

実施体制



ひむか未来マイスター・ハイスクール事業

機械科実習カリキュラムの見直し

1年工業基礎 R6年度より
3単位から4単位へ増

旋盤
フライス盤
アーク溶接
計測測定・鑄造
手仕上げ・板金



旋盤
フライス盤
アーク溶接
CAD
手仕上げ・鑄造

2年実習 R7年度より
3単位から4単位へ増

旋盤
フライス盤
ガス溶接
CAD・CAM
シーケンス制御

※項目は変わっていないが、1年次よりCAD実習を取り入れたことで、CAD・CAM実習の内容を変更した。

3年実習

切削
NC旋盤
ホブ盤
製作（ブックエント）
マシニングセンタ



切削（NCフライス盤）
NC旋盤
CAD・CAM
ワイヤーカット
マシニングセンタ

企業見学

本校機械科では、毎年1、2年生で企業見学を実施しています。



メタルフォージでの鍛造体験

1年生
株式会社中国工業所
清本鉄工株式会社
株式会社メタルフォージ
2年生
ミネアアクセスソリューションズ株式会社
株式会社デンソー宮崎

オープンバッジの取得（2年目、3年目）



旭化成株式会社デジタル共創本部 池田様による講義
1年生5学科の195名がレベル1を取得（昨年度84名）

エンL a bでのものづくり教室



産業実務家教員による技術指導



マイスター・インターンシップ【企業での実践的な学習機会の充実】

株式会社昭和では・・・
貯金箱製作
CAM NCフライス（マシニングセンタ）



株式会社興電舎では・・・
安全教育（脚立）、モーターの組立・分解



株式会社修電舎では・・・
配電盤の配線作業



株式会社池上鉄工所では・・・
TIG溶接



マツタ工業株式会社では・・・
レーザーによる金属加工
マシニングセンタ
ワイヤーカット
3次元測定



成果

- (1)本事業の実施により企業や地元行政とこれまで以上に意見交換や連携を深めている。地域や関係機関の協力を得る形で、学校内の様々な教育活動に対するアドバイスをいただいている。
- (2)マイスター・ハイスクールCEOの事業参画により、本事業の着実な実施のみならず、情報リテラシーを高める指導、ものづくりに関する幅広い視点を多くの機会に伝えていただくなど、生徒・職員に対する情報発信、企業視点での人材育成を伝えていただくことができた。
- (3)施設整備、実習項目検討を進めることができ、シーケンス制御等技能検定受験準備を進め、生徒取得に向け、環境整備を行うことができ、企業と連携した効果的な指導を進める。
- (4)エンL a bの整備や活用により、地域や社会の健全で持続的な発展につながる開かれた技術交流活動が開始されている。今後も工業高校ならではの特色を発信し、魅力ある学習内容を交えた活動を継続する。
- (5)小学生向け・地域住民向けのものづくり教室の開催、多くの県民来場がある県工業教育フェアでのワークショップ実施では、生徒の主体的な活動やICT活用による技術支援が行われた。エンL a bの活用へ、今後も地域、企業と連携した更なる充実化を図る。

課題

- (1)事業の成果を様々な機会を発信し、学校の現状を理解いただくとともに、連携モデルとして活用を図る。
- (2)産業実務家教員による技術指導により、企業視点によるICT活用など大変参考となっている。今後も、関係機関と連携を深め、様々な技術指導を取り入れ、予算措置等検討を継続する。
- (4)本事業に関係いただく企業数増に対して、安全に留意しつつ様々な技術指導や地元企業の魅力に触れる機会を設定し、関係者が後押しできる体制構築を引き続き図る。